

極秘

主管課緊急処理用

注意

- 1. 本電の取扱いは他電を併せのりしてはならない。
- 2. 本電の内容に付して照会は検出班(内線2171、2174)に連絡ありたい。
- 3. その他本電の取扱い等に関する照会は調整班(内線3169)に連絡ありたい。

電信写



① 外務省
 ② 大臣官房
 ③ 参事官
 ④ 次長
 ⑤ 主任秘書
 ⑥ 秘書官
 ⑦ 審議官
 ⑧ 官審長
 ⑨ 長

ア 経外査即 博
 大 大 察 位 代
 使 使 研 審 準 表

⑩ 総務部
 ⑪ 対文会厚情オ
 括
 審察人(電)在儀警史

⑫ 外報官
 ⑬ 参照内外

⑭ 文
 ⑮ 審一二

⑯ 領移
 ⑰ 参政保对旅外

ア
 ⑱ 審地中東
 参北東西

⑲ 北米長
 ⑳ 審一二(保地)

中
 ㉑ 参一二

⑳ 欧
 ㉒ 審西ソ洋
 西東

㉓ 近
 ㉔ 参一二(アア)

㉕ 経
 ㉖ 次総経途博
 審経漁国
 参経エ国
 安ネ二

参海 審準

㉗ 経協長
 ㉘ 審政国開無
 参調我有理

㉙ 参条協規

㉚ 国
 ㉛ 審政経人
 審軍社

科
 ㉜ 科原

㉝ 情調長
 ㉞ 参情析調
 企安

総番号 R200189
 月 5日
 平成 2年 10月 5日



トルコ 発
 本省 着

主管
 近 1

外務大臣殿 仙石大使

総理の中東訪問 (フセイン・ジョルダン国王との会談)

第987号 極秘 大至急

△△◎Aジョルダン、イラク、クウェイト◎230、220◎C310△△

4日、総理とフセイン・ジョルダン国王との会談が11時40分から約1時間行われたところ、概要次の通り(当方、小和ダ外審、野々山大使、ワタナベ近ア局長、木バタ経協局長、先方、ハッサン皇太子、バドラン首相、シャーケル王きゆう府長官、アブー・オデー政治顧問、大蔵大臣、商工大臣、情報大臣ほか同席、通訳ツルオカ)。

1. (1) フセイン国王より次の通り述べた。
 ジョルダンを訪問いただいたことに感謝したい。ジョルダンは今、友人を必要としている。今回の日本からの支援に対し深くおれいを言いたい。日本とジョルダンは長い友好関係にあるが、自分(「フ」)は特に日本の皇室との友情を有難く思っている。日本とジョルダンは中東地域と世界の安定に対し共通の願望を有している。この困難な時期に来訪されたことを改めて歓迎する。

(2) これに対し、総理より次の通り述べた。
 出発前にてん皇へい下より国王によるしくとの御伝言をおあずかりしてきた。昨日来、ハッサン皇太子、バドラン首相と有意義な会談を行ないわが国の援助の内容をお話した。国王から改めて謝意の表明をいただいたことに感謝する。ジョルダンが経済制裁実施により大きな経済困難に直面していること、難民の受け入れで大きな負担を負っていることを承知している。今後もできるだけの協力をしたい。8月2日以来、湾がん危機の平和的解決のため休みない努力が続けられていることにけい意を表す。この機会に今後の見通しにつき貴見をうかがいたい。

電信写

2. これに対しフセイン国王は次の通り述べた。

7月、イラクとクウェイトの間に問題が生じたことを知り、警かいすべき状況と考へて両国を訪問したが、双方にいかりと失望のすることを知り、危険を回避すべくクウェイトに訴えジェッタ会議にこぎつけた。しかし、8月2日の事態となつたが、その時期・規模は全く自分（「フ」）の予想外であつた。自分（「フ」）は8月2日直後、イラクからクウェイト撤退及びミニ・サミット出席のコミットを取り付け、アラブによる解決の可能性ありと考へたが、その機会は失なわれてしまつた。この事態を放置すれば、クウェイトの回復にとどまらずイラク自身の破かいにまで行きうる。この場合、この地域の石油、大量破かい兵器の存在を考へれば、戦火の影響は測りしれないものがある。そこでかかる爆発的事態を防止するため努力している。

イラク・クウェイト紛争の原因はいくつかあるが、これらはいずれも外部勢力による歴史上の統治の遺産であるか、あるいはイラク経済にとり死活の問題である。第1はイラクに海への出口がないこと、第2は両国間に油でんに関わる紛争があること、第3に石油価格についてのOPEC内での争いがあること、そして第4に地域内の持てる国と持たざる国のかく差の問題である。

ジョルダンの本件事態に対する原則は、第1に力による領土へい合を認めないということ、第2にアラブ内で説得によつて解決すべきこと、すなわち、力によらず外部勢力に依存しないこと、第3にクウェイト正当政府を承認し続けること、ただしくウェイト国民による完全に自由な決定があればそれを認める、第4に交渉による解決が必要であること、この関連で国際社会はパレスチナ問題につきイスラエルとの交渉により解決されるべきであると言ひ続けてきている、第5にあらゆる国連決議を誠実にじゆん守するということである。国連においては今次事態の解決につきアラブの役割が認められていない。他方においては、今次事態の原因そのものに取り組まなければ解決は不可能であり、そのためには妥協が必要である。

3. 以上に対し総理より、本件の安保理決議に従つた公正かつ平和的な解決、経済制裁じゆん守、そのためしゆうへん国支援等を中心にわが国の基本的立場を改めて説明した。

4. これに対し、フセイン国王が述べたところ次の通り。

(1) イラクが経済的に首をしめ上げられ、外交的努力も効をそうさなくなつたとの感情は理解すべきである。また、イラクには明らかにサウデイ侵攻の意図はなかつた。イラクは国境係争地帯だけを占領したのはクウェイトに外務勢力が侵攻し押しもどされてしまうと考へてたのであろう。イラクのクウェイト侵攻は、

電信写

そうしなければイラク自体の死活の問題を解決できなかつたということであり、これにおどろいた他のアラブ諸国が外部勢力の導入を図つてしまった。

(2) 自分(「フ」)は、国連決議の原則が守られるべきことについては全く同感である。ただ、地域の問題の原因そのものの解決が同時に必要である。そこでアラブ内の異なる立場の国によるブロックを作り、話し合いによる解決の可能性をさぐりたいと努力している。

(3) パレスチナ問題については、今次事態とリンクされるべきではないが、今次事態が解決され次第これに取り組む必要がある。また、この地域の持てる者と持たざる者とのかく差の縮小も必要である。

(4) いわゆる人質問題については、自分は最大限の努力をしてきた。ただイラクは人質が戦争のぼつ発を防止していると信じ込んでいる。自分はこの問題につき今後も働きかけていくつもりである。

(5) 日本とジョルダンと共に平和的解決を求めている。戦争はすべての国の国民に影響を及ぼしこの地域の不安定化をもたらす。また、せい地の守護者たるべきサウデイ・アラビアが外国軍を導入したことはアラブの感情をきずつけている。自分は、明日、将来のために一かんして努力を続けたい。

5. 以上に対し総理から次の通り述べた。

日本とジョルダンが共に平和的解決を求めているのはその通りであるが、日本の立場は、国際社会ちつ序の原則の問題として、先ずイラクのクウェイトからの撤退、クウェイト正当政府の復帰が行わなければならないというものである。その後初めてイラク・クウェイト間の紛争の解決もパレスチナ問題の解決も可能となる。多国籍軍はまさにかかる目的のための経済制裁の確保のために存在するものであり、その故に日本はこれを支持している。

6. 国王より、イラクを破かいするための軍事力行使の及ぼす影響は予測もつかないものであろう、それはこの地域に力の不きんこうを生みまた力の空白を生ぜしめるであろう、日本とジョルダンは目的を同じくし原則も同じくすると考える、ただ今次事態の原因に取り組むドアを開けておく必要がある、このことは特にアラブ域内のものにとつて必要である旨述べて会談を終了した。

サウデイ、エジプト、ジョルダン、オマーン、イラク、米、ジョルダンに転電した。(了)